

特集

未来社会をプロデュースする

編集にあたって ～21世紀「次の10年」を プロデュースするICT～

水野忠則¹ 茂木 強²

¹静岡大学
²三菱電機(株)

21世紀になって10年、どこへ行っても有線・無線問わずさまざまな種類のネットワーク技術により、常に必要とするデータにアクセスできる環境が整えられてきている。また、20世紀に考えられていたビジョンのほとんどが実現されていることが実感される状況になってきた。いまや社会を支える技術となっていると言い切つてよいと考えられる。今後ますますこの傾向は続き、21世紀の社会はネットワークを中心としたICT (Information and Communication Technology) によりプロデュース

されると言っても過言ではないと思われる。しかし、この10年は必ずしも華やかだったわけではなく、景気低迷、Google、アップルなどの米国企業と台湾、韓国企業のはざままでヒット不在、想像力の欠如と創出意欲の低下など、国内のICT業界にとってはもしかしたら「失われた10年」であったと見る向きもあるかもしれない。一方で、ニコニコ動画や初音ミクなど国内から新しいICTのクリエイティブな流れが、特定のコミュニティの指示のもと、立ち上がりつつあることも事実である。21世紀の2番目の10年を迎えるにあたり、このような新しいクリエイティブの芽を取り上げ、意気揚々と新しいクリエイションに取り組む何人かの代表的な研究者に、そのビジョンを語っていただくことを企画した。

本特集は、本会「マルチメディア通信と分散処理(DPS)」、「グループウェアとネットワークサービス(GN)」、「モバイルコンピューティングとユビキタス通信(MBL)」、「コンピュータセキュリティ(CSEC)」、「高度交通システム(ITS)」研究会、「ユビキタスコンピューティングシステム(UBI)」およ

ICT

び「インターネットと運用技術 (IOT)」研究会の共催、「放送コンピューティング (BCC)」研究グループおよび「情報セキュリティ心理学とトラスト (SPT)」研究グループの協賛で開催される DICOMO2010 シンポジウムでの発表をベースとしている。平成9年度からスタートしたこのシンポジウムは徐々に規模を拡大し、インターネットを中心とした通信技術から、マルチメディア通信、分散システム、グループウェア、モバイルコンピューティング、ITS、ユビキタス、セキュリティ技術や放送コンピューティングに関する分野では国内最大級のシンポジウムとなっている。昨年度は、特に若手研究者に注目し、ユーザー特性や行動などを考慮した新たな社会への浸透の形を研究開発したものを中心にこれからの10年、20年先の技術のさきがけとなる技術として、これらの研究開発例を紹介する「社会に浸透する新たなコンピュータ/ネットワークの世界」特集(情報処理51巻1号)を実施した。

DICOMO2010では、「未来社会をプロデュースするICT」を統一テーマとして、各セッションにて

その分野の代表的な研究者の方にテーマに沿った招待講演があった。

本特集では、DICOMO2010での発表題材をもとに、「20世紀はどうだったか(何が行われ、何が求められてきたか.)」、「21世紀に入って最初の10年がどうだったか(何を得、何を失ったか?)」、「どのような技術が未来をプロデュースするのか?」、および「新しい技術によってこれから10年はどうなるのか(5年後、10年後の『マニフェスト』)」の観点から、未来プロデューサとして、招待講演者の方から7件、そして、若手プロデューサとして新進気鋭の若手から10件、21世紀『次の10年』をプロデュースするという観点から新しい技術と未来ビジョンを語っていただいた。

本特集は、DICOMO2010での発表をベースにしているのですが、ICT全体ではなく、ネットワークに偏っている傾向はあるが、今後の技術の方向性や、若手技術者のユニークな発想と意気込みを知っていただければ幸いです。

(平成22年11月26日)